

教科	科目	学年	単位数	使用教科書	主な使用補助教材
芸術	音楽Ⅰ	1	2	MOUSA 1（教育芸術社）	なし（適宜、楽譜やプリントを使用）

1 科目の目標と評価の観点

目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広くかかわる資質・能力を育成することを目指す。				
評価の観点	表現・技能		思考・判断・知識	主体的に学習に取り組む態度	
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関り及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につける。		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴くことが出来るようになる。	主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯に渡り音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身につける。	

2 学習計画と観点別評価基準（歌唱ありの場合）

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1、校歌	1学期（22）	1～3、歌唱（ア・カペラ合唱・イタリア語、ドイツ語の歌の独唱） 4、楽典 5、鑑賞	曲想と音楽の構造や歌詞との関りについて理解している。創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、他者を意識して歌う技能、体の使い方、などの技能を身につけている。	音色・リズム・テンポ・旋律・構造・強弱・形式・構成等を知覚し、それらの働きを感じしながら、総合的にどのように歌うかについて表現意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞、様々な背景との関りに関心を持ち、主体的・協働的に創意工夫を生かした歌唱学習に取り組んでいる。
2、合唱祭自由曲練習			曲想と音楽の構造や歌詞、曲の背景などを理解している。創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な発声、他者を意識して歌う技能、合唱の表現形態の特徴を生かして歌う技能を身につけている。	音色・リズム・テンポ・旋律・構造・強弱・形式・構成等を知覚し、それらの働きを感じしながら、合唱として総合的にどのように歌うかについて表現意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞、様々な背景との関りに関心を持ち、主体的・協働的に創意工夫を生かした歌唱学習に取り組んでいる。
3、独唱・野ばら（シューベルト） ・カーロミオベン			曲想と音楽の構造や歌詞、曲の背景などを理解している。創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な発声、言葉の発音、体の使い方などの技能を身につけ、歌唱表現している。	音色・リズム・テンポ・旋律・構造・強弱・形式・構成等を知覚し、それらの働きを感じしながら、合唱として総合的にどのように歌うかについて表現意図をもっている。	曲想と音楽の構造や歌詞、様々な背景との関りに関心を持ち、主体的・協働的に創意工夫を生かした歌唱学習に取り組んでいる。
4、楽典（音名、楽典の基本）			読譜に関連した楽典の基本を学習し、理論的に理解することで創意工夫の幅がより広がるよう、関連付けて理解している。	表現活動の裏付けとなっている楽典やソルフェージュに関心を持ち、音楽を形作る様々な要素を理論的に理解している。	様々な要素から音楽が成り立っていることに興味関心を持ち、理解を深めながら主体的・協働的に学習に取り組んでいる。
5、鑑賞・ミュージカル			曲想や音楽の構造や歌詞との関り、また、音楽の特徴と他の芸術との関りについて理解している。世界各地の音楽の特徴と文化的歴史的背景との関りについて理解している。	音楽を形作る様々な要素を知覚し、様々な音楽の在り方について考え、音楽表現の共通性や多様性や固有性について考え、音楽とは何かを考えることで、音楽の良さや美しさを味わっている。	音楽の特徴と他の芸術との関りや、世界各地の音楽の特徴と文化的歴史的背景との関りに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組んでいる。
実技テスト	4				
定期考査	0				
1、ギター（弾き語り）	2学期（22）	1、器楽（ギターの習得） 2、リズム・アンサンブル、創作 3、楽典（和音、コードネーム）	ギターの奏法や音色について理解している。創意工夫を生かした器楽表現に必要な、曲にふさわしい奏法、体の使い方などの器楽表現技能を身につけている。	音色・リズム・テンポ・旋律・構造・強弱・形式・構成等を知覚し、それらの働きを感じしながら、どのように演奏するかについて考え、表現意図をもっている。	創意工夫を生かしたギター表現をするために、曲にふさわしい奏法や音色を工夫し、主体的・協働的に器楽学習に取り組んでいる。
2、カッパスによるリズム・アンサンブル、リズム創作			創意工夫を生かした表現をするために、曲にふさわしい奏法や音色・他者との調和を生かして演奏する技能を身につけて表現している。	音色・リズム・テンポ・旋律・構造・強弱・形式・構成等を知覚し、それらの働きを感じしながら、総合的にどのように演奏するかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした表現をするために、曲にふさわしい奏法や音色・他者との調和を生かして演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。
3、楽典（和音、コードネーム）			器楽学習に関連したコードネームの学習を通して楽典全般を学習し、理論的に理解することで創意工夫の幅がより広がるよう、関連付けて理解している。	表現活動の裏付けとなっている楽典やソルフェージュに関心を持ち、音楽を形作る様々な要素を理論的に理解している。	様々な要素から音楽が成り立っていることに興味関心を持ち、理解を深めながら主体的・協働的に学習に取り組んでいる。
実技テスト	4				
定期考査	0				
1、コンサート（実技テストを兼ねる）	3学期（18）	1、コンサートを通して、音楽とは何かについて考える。 2、楽典 3、鑑賞	表現活動のまとめとして、創意工夫を生かした自己表現の場として実施し、プログラムを作成した演奏会形式を取ることで、自身にとっての音楽の在り方や音楽との関わり方を再認識する。	これまでの様々な学習を総合的に捉え、それらを生かし、音楽を通しての自己表現の為の創意工夫をしている。	コンサートに向けての練習を通して、学びに向かう姿勢を育て、感性を高め、豊かな情操を養い、音楽を愛好する心情を育んでいる。
3、楽典			コンサートで演奏した曲について、理論的に理解することで創意工夫の幅がより広がるよう、関連付けて理解している。	表現活動の裏付けとなっている楽典やソルフェージュに関心を持ち、音楽を形作る様々な要素を理論的に理解している。	様々な要素から音楽が成り立っていることに興味関心を持ち、理解を深めながら主体的・協働的に学習に取り組んでいる。
3、鑑賞・オペラ			美術・演劇・音楽の構造や歌詞など、総合芸術について理解を深め、世界各地の音楽の特徴と文化的歴史的背景との関りについて理解している。	音楽を形作る様々な要素を知覚し、様々な音楽の在り方について考え、音楽表現の共通性や多様性や固有性について考え、音楽とは何かを考えることで、音楽の良さや美しさを味わっている。	音楽の特徴と他の芸術との関りや、世界各地の音楽の特徴と文化的歴史的背景との関りに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組んでいる。
定期考査	0				